



議 会 だ よ り

No. 103

平成26年10月
発行/日野町議会



9月定例会 主な内容

- ・25年度決算認定 p 2～5
- ・26年度補正予算 p 6
- ・旧サンナラザ特集 p 7～8
- ・一般質問 (6人) p 10～15
- ・特集コーナー p 16

自然を体いっぱい浴びて

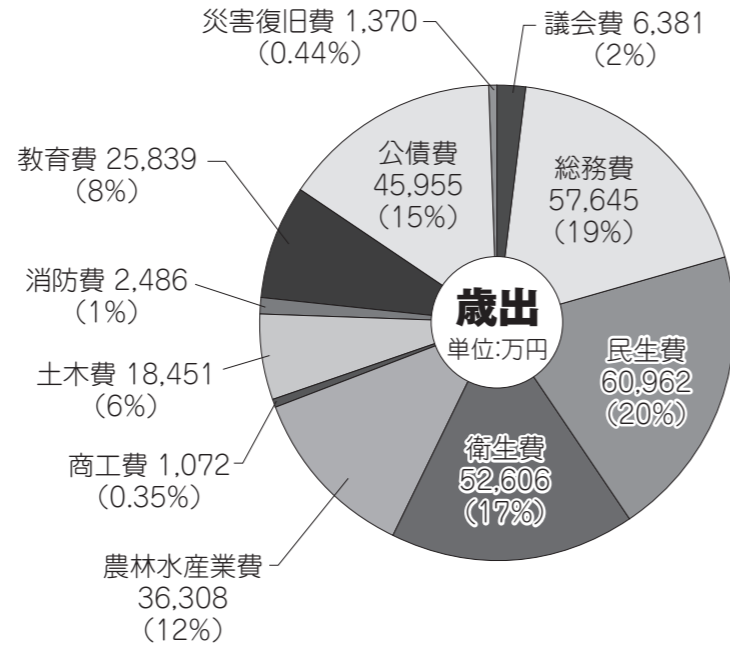
ラフティングで日野川の清流を下る

(関連記事16ページ)

平成25年度
一般会計決算
認定

歳入総額 **33億2,728万円**
歳出総額 **30億9,079万円**
差引額 **2億3,649万円**

※数値は端数切り捨てのため、合計が一致しない場合があります。



町民1人あたり
約88万円
使いました

町民一人当たりの
公債費(借入金)
約74万円

平成25年度一般会計公債費(借入金)残高

鳥取県西部地震復旧復興関連	4億9,100万円
町道、林道、農道(広域農道含む)	2億7,343万円
庁舎、保育所、町営住宅等施設整備	3億9,637万円
臨時財政対策債	11億8,925万円
災害復旧費	990万円
防火水槽等その他	2億6,130万円
地方債(借入金)合計	26億2,127万円



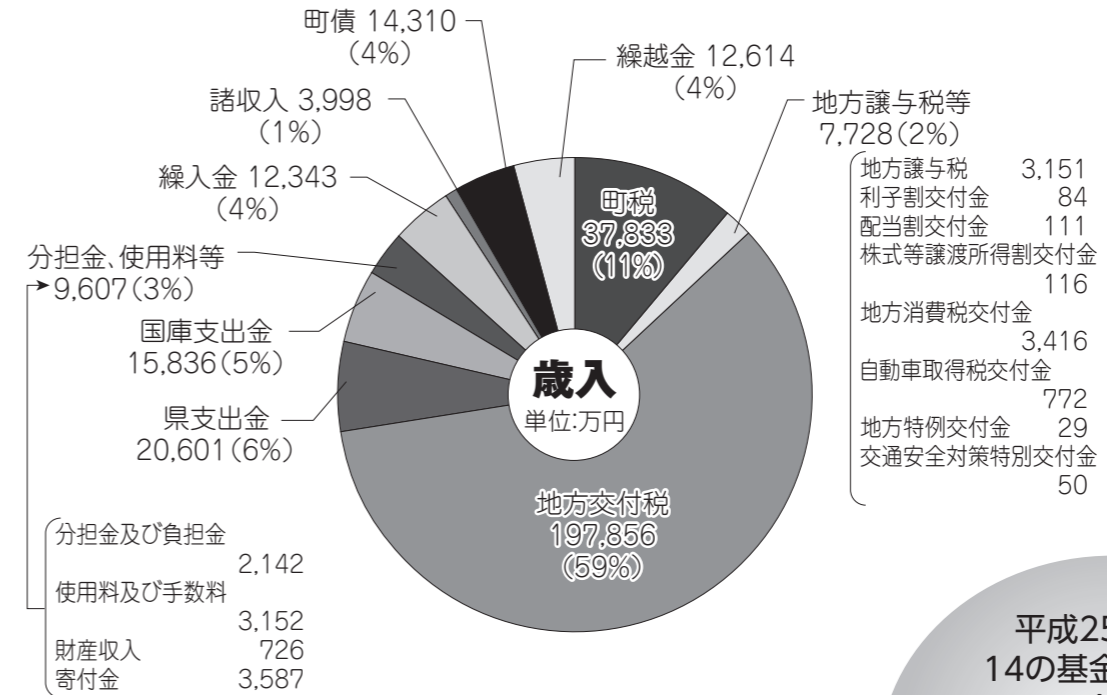
防火水槽 (高尾)

一般会計

歳入歳出差引額は、2億2,628万円の黒字決算でした。
基金(預金)に1億2,000万円の積立をし、残り1億6,280万円を、26年度一般会計に繰越しました。

財政健全化に向かう

実質公債費比率は、国の基準である25%を下回り、昨年度より0.8ポイント低い20.3%と改善され、借金の将来的負担を示す将来負担比率も昨年度より26.6ポイント低い24.1%と、より健全化に向かっていきます。



平成25年度末
14の基金(預金)
合計
16億2,490万円
町民1人あたり
46万円

滞納累積にストップを

一般会計の滞納額は、昨年度より166万円減少しているが、1億1,017万円と多額です。
その内、住宅新築資金等貸付金、災害援護資金貸付金滞納額は、減少し徴収努力の成果と評価しますが、

未収金総額の78.6%で、財政運営に大きな影響を与えており、納税義務意識を徹底し、徴収に努められた

主な税金等の年度別滞納額

区分	23年度	24年度	25年度
一般会計	1億1,123万円	1億1,183万円	1億1,017万円
固定資産税	1,609万円	1,809万円	1,898万円
住宅使用料	347万円	371万円	386万円
住宅新築資金等貸付金	7,169万円	7,070万円	6,871万円
災害援護資金貸付金	1,996万円	1,932万円	1,791万円
特別会計	2,732万円	2,745万円	2,704万円
国民健康保険	2,663万円	2,684万円	2,655万円
介護保険		2万円	0
簡易水道	49万円	46万円	39万円
公共下水道事業	15万円	19万円	6万円
農業集落排水事業		2万円	2万円

※数値は端数切り捨てのため、合計が一致しない場合があります。



介護保険（ディーサービス）

7会計とも歳入歳出の事務処理については、適正に処理されていきました。
 企業会計である簡易水道、公共下水道事業会計の滞納額は、昨年度より減少しています。
 国民健康保険特別会計では、滞納額が昨年度より29万円減少しましたが、2655万円と多額です。
 滞納者は、固定化、多重債務化しているため、徴収方法等の検討を指摘しました。

特別会計	歳入総額	歳出総額
国民健康保険	4億2,795万円	4億600万円
介護保険	5億4,610万円	5億3,555万円
後期高齢者医療保険	5,293万円	5,281万円
簡易水道	1億620万円	1億620万円
公共下水道事業	1億1,005万円	1億1,005万円
農業集落排水事業	7,263万円	7,242万円
鳥取県西部町村情報公開・個人情報保護審査会	58万円	8万円

全員賛成で認定しました。

特別会計

25年度 一般会計 主な使いみち

地域活動支援交付金 10団体合計 188万円

- ・真住公民館・野田自治会・金持開運ウォーキング
- ・高尾自治会・黒坂城下を知らう会・出雲街道花嫁行列
- ・根雨一区ほたる会・バーガープロジェクト
- ・ホールと共に歩む会・水と魚に親しむ会



コミュニティ助成（そば打ちセット）

- ・タクシー利用者補助 476万円
- ・過疎バス対策 1,998万円
- 町営バスの運行経費
- 日の丸バス日野線補助
- ・日野病院医療機器整備事業 2,600万円

- ・地域おこし協力隊支援事業 2人分 401万円
- ・交流促進施設管理 747万円
- リバーサイドひの管理委託料と修繕費

- ・社会福祉協議会助成金 846万円
- ・生活保護扶助費 4,953万円
- 生活費・医療費・住宅費・施設費用等の支給扶助

- ・MRI購入費用に対する、本町負担割合分
- ・鳥獣被害対策事業 304万円
- 有害鳥獣捕獲事業
- 侵入防止柵等設置に対する助成

- ・町債（借金）返済元金 4億2,648万円
- ・日野病院組合事務 3億3,308万円
- ・環境衛生費（し尿分） 2,271万円
- 日野町江府町日南町衛生施設組合負担金

- ・西部広域行政管理組合 1億2,618万円
- 西部広域消防不燃物処理 塵芥処理等西部圏域の広域行政に拠出

- ・コミュニティ助成事業 150万円
- 宝くじを財源に下榎2区に補助
- ・子育て支援おひさま広場事業 240万円
- 週3回ひのっこ保育所内でおひさま広場を開設

審議の経過

議員 予防費で不用額が多く出ている。インフルエンザ等予防推進を十分行ったか。

執行部 不用額の主な原因は、ワクチン接種委託料で、日野郡の3医療機関は、子供の場合1000円の1/2補助で行われている。他は、3600円となっている。差額幅が大きいのも要因。

議員 地域おこし協力隊が全町での活動にならないか。

執行部 半年経過したところだ。それも含めて考えたが、地元の理解を得ることが一番大事だ。

議員 クラブ活動振興費で、活躍したクラブ等の大会出場や成果を懸垂幕で顕彰したら。

執行部 庁舎内に懸垂幕を張り出しているが、広く町民の見えるところで、考えてみたい。

- ・地籍調査事業 1,365万円
- 久住地区129ヘクタールを調査
- ・竹林整備事業 253万円
- 津地・黒坂地区竹林伐採などの支援

一般会計決算討論

反対討論 佐々木 求議員

私は、一般会計が、予算として提案された時にも反対の討論をしました。理由は、同和対策関連の事業費約2000万円が執行されていることです。根拠法がなくなり14年以上も経つたのに、いまだにこうしたものが執行されていることは許されないことです。一日も早く解決を図るためにも早くすることこそ大事です。一般会計決算は、不認定とし反対討論とします。

賛成討論 中原 明議員

歳入歳出の均衡のとれた決算です。財政健全化は、着実に進んでいます。滞納額の大半は、住宅新築資金等貸付金ですが、困難を期すも減少しており、努力の成果は認められる。経費等、支出の節減により2億2628万円の黒字決算となり1億2000万円の基金繰入れ、公債費繰上げ償還、実質公債費比率20・3割等、努力を評価します。指摘事項はありますが、不認定にするような事項は無く、一般会計は、認定とする討論とします。



竹林整備（津地地区）

主な個別指摘事項

26年度以降の予算に、指摘事項が反映されるように町執行部に決算認定にあたり指摘をしました。12月の議会定例会で、指摘事項について検討された結果の報告を受けることになっています。

税の滞納について
 納税義務意識・支払義務意識の徹底と滞納の打開に向けた対策をはかられたい。

交通空白区域解消の観点から、タクシー利用の混雑時間帯などに、日南タクシー利用も出来ることを町民に周知されたい

地域活動支援交付金は、自治会活動の一部や交付金頼みの活動、一部自治会への偏りが見られ、平等性から情報発信の徹底をはかられたい。

ほかばか教室の開催は、全自治会の6割に止まっている。認知症を含めた生涯教育との連携を合わせて、積極的推進をはかられたい。

高齢化で町道の草刈等困難な状況がみられる。緊急雇用の確保などにより継続した支援対策を講じられたい。

鳥獣対策について、郡内統一した対応で強化推進されたい。

ガン検診等で、要精密検査の再受診割合が低い。指導、勧奨を強め、受診率の向上をはかられたい。

図書館と各学校の図書との連携を図る中で、小学校間の連携推進が必要と思われる。児童生徒の減少する中で、教育の在り方を検討されたい。

小中学校に係る体育大会等派遣費補助を全額補助に戻されたい。

第5回定例会は、9月8日に開会し、会期を9月30日までの22日間とし、平成26年度補正予算4件、平成25年度決算8件、条例の制定1件と一部改正2件、教育委員会委員の任命、議員発議による一般会計補正予算修正案1件、特別委員会設置、請願審査3件、陳情審査4件、意見書提出5件を原案どおり可決、認定、同意しました。一般質問では、6人の議員が活発な質問意見を展開しました。

一般会計補正予算
1億8,691万円を追加
総額31億3,454万円

歳入(収入)の主なもの

- 地方交付税 8875万円
- 国県分担金及び負担金 816万円
- 国県分担金及び負担金 減額 2660万円
- 観光振興基金繰入金 10万円
- 臨時財政対策債 1021万円
- 前年度繰越金 1億628万円

歳出(支出)の主なもの

- 若者定住住宅建設 3643万円
- 財政調整基金積立金 6671万円
- 町債償還金元金 (繰上償還分) 7800万円
- LED防犯灯設置補助 275万円
- 過疎バス対策費 修繕費 10万円
- 都合山たたら遺跡土地購入費 313万円



- 町道根雨西側線道路改良事業 測量設計・土地購入 104万円
- 水痘・高齢者肺炎球菌予防接種 257万円
- 地域包括ケアシステムの構築 100万円
- 歴史民俗資料館管理 57万円
- 火災報知器 13万円
- 町史編さん 21万円
- 中学校クラブ活動振興費

特集 サンプルザ購入



旧サンプルザ

議員 296万円で、旧サンプルザを購入して地域活性化に生かしたいとのことだが、その内容は、
課長 裁判所において、3回の競売がありました。裁判所より今回最後の1回の競売があり、確実に取得できる最後の機会と思います。

議員 地権者の協力は、
課長 土地の賃借料は、地部分の土地に対する固定資産税に若干の上乗せで、賃借できます。
議員 地域活性化の拠点と
課長 町内の特産品販売、トイレ、葬祭などに使用可

能なコミュニティーホール、商業ゾーン等が考えられます。利活用再生検討委員会で、検討していきます。
議員 その設備費は、
課長 それぞれの面積割合が、できていませので、今は計算できません。
議員 設備費は、すべて町費で賄うのか。
課長 財源は、国が進めている地方創生で、地方再生のモデル事業にもなりうると思います。鳥取県、国において、自由度の高い交付金、目的をもった交付金を念頭に事業が展開できると思います。県の遊休施設活用支援事業も活用できると思います。
議員 利用目的において、企業誘致とか福祉の向上、防災施設等の考えは、
副町長 執行部内でも、検討しています。コミュニティーホールでも、福祉、防災機能に活用できると思っています。

旧サンプルザ購入費減額修正案可決

議員発議で、旧サンプルザ購入費296万円と利活用再生検討委員会報償金3万円を減額する修正案が、提出された賛成7人、反対2人の賛成多数で修正案は、可決しました。

修正案提案説明

松本議員 委員会報償費3万7千円、印紙代2千円、財産購入費296万8千円を減額とする修正案です。建物取得について、計画の不透明、まちづくりビジョンとの連動、緊急性、必要性、事業効果、総事業の概算が示されないのは問題です。取得後に委員会検討すれば、利活用の方向性によっては、施設の改装や維持管理に莫大な町負担のリスクが懸念されます。利活用計画を立て、改修費、借地料など具体的な数値を示し、町内業者、町民の意見を十分協議した上で、事業展開、事業提案されるべきと考えます。特に将来を見据えた、身の丈にあった計画の展開を求めます。

竹永議員 執行部の説明には、活用構想はあるが、具体的に活用の面積割合は示されていないのに、莫大な費用の根拠は。
松本議員 説明を受けた範ちゅうでは、ものが申しません。
竹永議員 根拠がないのに修正案の提案説明にはならないと思うが。
松本議員 活用について想像ができません。金額が示されれば、審議もできるが、現段階ではどうにもなりません。言えません。

ここで修正案動議が提出

安達議員 具体的活用計画をもって事業提案されるべきと、修正案の提案説明があり、購入には反対ではないと感じました。具体的使用案が出来た後、この機会以外にどんな方法で取得できるか。

松本議員 活用計画が分かれば、結論はだせませんが、分からないから、今はいいないのです。

安達議員 答えになっていません。

佐々木求議員 計画がない状況で、取得を先行させてはいけないという論を言っているのです。

(答えになってない声あり)

議長 質疑を終わります。

討論は、原案及び修正案あわせて行います。

竹永議員 サンプラザ跡地は、日野町の一番の中心地です。県の援助や地権者の理解を得て安価で土地の借用ができる説明がありました。若者が住んでみたい、住

みたい町づくりや観光の拠点となる施設になり、町の活性化に生かす理由で原案賛成とします。

議長 原案及び修正案に反対討論を行います。「なし」

議長 原案賛成の討論を行います。

安達議員 このたびの補正予算は、人口減を防ぐための住宅政策、都合谷たたらを保存する文化の意識。

サンプラザ購入は、再開発を模索し、日野町の育成を目指した予算です。

町民挙げて町の活性化、未来の日野町を私は見つけたい、そう思っただけで原案に賛成します。

議長 修正案賛成の討論を行います。

佐々木求議員 事業の全体構想や、必要な事業費を示すことができない状態は、責任ある提案ではありません。建物の取得が300万円だとしても、その後の莫大な負担を考へるなら修正案は当然のことです。

西部町村議会議員研修会

9月2日、大山町立中山温泉・生活想像館わくわくホールに西部地区7町村の議員約80人が出席して、自治労者表彰式と議員研修会が開催されました。

して通算11年以上在職し、功労のあった小谷博徳議員が表彰されました。

研修会

自治労者表彰（日野町）では、町村議会議員と

副知事を講師に、「活力あるふるさと」地域の資源を



西部町村議会親善球技大会で優勝した日野町議会

人口減少社会に向かつて、移住定住の推進事業や、中山間地市町村保育料軽減の取り組みなど紹介されました。また、自然を生かした子育ての取り組みで有名な、智頭町発「森のようちえん」が、県内5か所に増えたことで「森のようちえん」に助成を始めた。たと報告がありました。

全国に先駆けて制定された手話言語条例を積極的に展開させる仕組みづくりなど、開催中の第14回全国障



小谷博徳議員

活かす」と題して、講演を聴きました。

鳥取県が推し進めている産業・文化・貿易・子育て・観光・医療等、実に幅広い施策を推進していることを紹介されました。

陳情・請願

○地方財政の充実・強化を求める陳情

(採択)

○「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情

(趣旨採択)

○さらなる年金削減の中止を求める請願

(趣旨採択)

○「介護・医療総合法案」の撤回を求める請願

(趣旨採択)

○義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2015年度政府予算に係る意見書採択を求める請願書

(採択)

○「手話言語法」制定を求める意見書の提出を求める陳情について

(採択)

○ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書の提出に関する陳情

(採択)



手話をしながらの講演

意見書

●地方財政の充実・強化を求める意見書

●義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2015年度政府予算に係る意見書

●手話言語法(仮称)の制定を求める意見書

●ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

●軽度外傷性脳損傷の周知及び労災認定基準の改正等を求める意見書

衆・参院両議長、内閣総理大臣、外閣関係大臣に提出



日野郡議員研修会

町村議会議員の健康増進と連携を深めるために行われた、親善球技大会(グラウンドゴルフ)で、前回に次いで日野町が優勝しました。

日野町議会が優勝 グラウンドゴルフ

7月8日、日野郡議員研修会が日南町で開催されました。

郡議員研修会

今回の研修会は、「議会改革の取り組みと課題」と題して、各町の議員の代表が活動内容を発表し、意見交換しました。

過疎と高齢化の進む中で、町の活性化対策や出かける



日南町太陽光発電所

次に、日南町子育て支援センターと日南町石見東太陽光発電所(神戸上・240KW)一般家庭約75世帯分の年間電力消費量に相当)を現地視察しました。

板井原川の氾濫防止対策を急げ

答「おしどり荘」裏から着手



松本 利秋議員

議員 近年、異常気象でこれまで経験したことのない豪雨により、全国各地で大災害が発生し、大雨が心配されます。
本町では、根雨地内の板井原川の氾濫が以前から何

回も指摘されております。県が防止対策事業を本年度から実施すると聞いておりますが、一番危険な区間の「おしどり荘」裏の堤防付近を先に進めなければと思いますが、実施計画はどうなっていますか。

町長 板井原川の氾濫危険区間で、根雨橋から根雨上橋までの河川改修は、防災上最重点課題です。

早期に整備することで、町・関係自治会などで県に要望し、今年度から4年間で実施されることになりました。

工事は、下流側から実施するのが原則ですが、県は強い地元要望に応えて、本年度より当該箇所から工事

に着手していただくことになりました。

議員 先日にも本町で局地的な豪雨があり、大雨警報が発令されました。

大雨に対処するためにも降雨量の目安を決めておき、無線で周知するなどの仕組みの構築や、自主避難することが必要ではありませんか。

町長 まず、第一には、自分の身を守ることが大切で

す。

情報を収集して、提供していきたいと思えます。

議員 公の雨量計を日野地区に設置し、簡易の雨量計などで、自分の身を守ることを周知したらどうですか。
課長 全町をカバーできるよう県に相談し、ご指摘の件、検討してみたいと思います。

町長 まず、第一には、自分の身を守ることが大切で

す。

年度より当該箇所から工事



板井原川（おしどり荘裏）

議員 地域防災力の認識を伺います。

町長 自主防災組織、各自治会、消防団、町などが行う防災活動の役割分担と連携、協力など総合的な防災体制と、その能力と考えます。

住民の生命を守るため、消防団を中核とした地域防災力の充実強化の法律が定められました。

議員 消防団等の充実強化のため取り組みべきことは、何と考えますか。

町長 消防団員の高齢化と団員数が減少する中で、新団員の加入と、消防団の整備改善が課題です。

議員 消防団員加入促進をするために、この法律にある①消防団協力事業所制度の導入②少年消防クラブ等の活動推進③消防団の処遇改善、整備改善の制度を活用しませんか。

町長 ①消防団に協力している事業所に対して、地域の防災力の推進を図る制度ですが、本町での導入は考えていません。

②児童生徒への消防に対する理解を深めるため保育所、小中学校の防災教育・訓練を通し学習活動



西部広域消防圏連合演習のため集結した西部町村の消防車



自治会の防災訓練

③団員退職金を5万円増としました。装備も、安全ゴム長靴、ヘルメットの購入費を補正予算に計上しています。消防団として装備すべきものは、装備していきます。

議員 協力事業所制度は、消防団員を出した会社への優遇措置として、県税の減

額などをするもので、全国で152町村が導入しています。

県に、地域防災力の充実強化モデル事業があります。これを活用推進しませんか。

町長 県と相談しながら、団員の加入促進に努めたいと思います。

消防団協力表示制度導入を

答 県と相談し考える



安達 幸博議員



西部広域消防圏連合演習のため集結した西部町村の消防車

町長 ①消防団に協力している事業所に対して、地域の防災力の推進を図る制度ですが、本町での導入は考えていません。

②児童生徒への消防に対する理解を深めるため保育所、小中学校の防災教育・訓練を通し学習活動

町長 県と相談しながら、団員の加入促進に努めたいと思います。



ペットボトルで作った簡易雨量計

896自治体が消える

町の対策は

◎過度に不安がる事はない



小谷 博徳議員

議員 26年後には、896の自治体が消滅するという推計が出ました。この町もその中に入っていますか。

町長 入っております。

議員 人口減少の課題解決



片付け中の空き家

策に、いくつかのパターンで取り組んでおられる。

今後の取組の方向性を、聞かせてください。

町長 移住定住に向けた若者住宅や、今後子育て世代の住宅の建設。インターンや地域おこし協力隊の制度を活用し、取り組みたいと思っています。

店や学校がなくなる

議員 人口減少は、インフラ整備や店を含めた産業の衰退や教育・医療などの後退につながります。

今後の予測と町民の安心を、どのように取り組まれますか。

議員 県支出金の市町村交付金は、要件が緩和されました。

地域活性化の交付金ですが、本町は県下最低で56万9千円、若桜町835万4千円、日南町1205万9千円です。県下最低は、何を意味しますか。

町長 本町も21事業を認めてもらい、事業に有効的に活用されています。

交付金事業には半分の町負担が必要であり、有効な事業展開を行っています。

議員 結果は数字です。各市町村も同じ条件のもとで取り組んでいる。前向きに地域活性化に取り組んでいる自治体ほど、活性化しているから、この数字が出てくるのです。

町長 本町に必要なものを交付金でいただき実施しており、他町に引けをとる事はないと思っています。

議員 新年度予算を骨格予算としたのは、なぜですか。



黒坂・普福地区敬老会



地域おこし協力隊と地元住民

集落の危機感が薄い

町長 人口減少はいろいろな影響を及ぼすことが予測できます。しかし、人口減少を過度に不安がることはありません。

この町に暮らす人々が、いかに平穏な日々が送れるような整備をするか。このことが町民の安心を生むと思います。

議員 集落が危機感を持たないと、借家登録などが進まず、結果的に移住定住に支障がでると思います。

課長 鳥取県独自の集落点検シートを利用し、人口推計を集落に示し、将来に向けた話し合いを、進めたいと考えています。



おしゃべりカフェ

町長 副町長を置く新体制での予算編成の観点から骨格予算としました。

議員 きらりと光るビジョンは、町民が主役で一緒に推進すると表現されました。推進には行政参画を促し、各分野のプロジェクトチームを作り、課題や計画実現への取組みを提案します。

町長 物にはいろんなやり方があり、一つの方法では

あるかと思っています。

議員 ビジョンは理念で、基本計画ではなく、実施計画は考えていないと言われました。

数値目標を立て成果を検証しなければ、行き当たりばったりで、その場しのぎではないですか。

町長 私は、そうは思っています。町民からも余り聞こえてきません。

なぜ ビジョンの実施計画はないのか

◎いろいろなやり方がある



中原 明議員



黒坂・普福地区敬老会

議員 新年度予算を骨格予算としたのは、なぜですか。

町長 物にはいろんなやり方があり、一つの方法では

鳥獣被害対策の強化を

答奨励金の拡大や防止強化に努める



佐々木 求議員

議員 野生鳥獣の被害は、深刻・広域化してきており、農家の経済損失や、生産意欲の減退をきたさないような対策が求められています。

議員 野生鳥獣の被害は、深刻・広域化してきており、農家の経済損失や、生産意欲の減退をきたさないような対策が求められています。捕獲の強化、地域・集落



イノシシ防止柵

議員 捕獲奨励金の拡大・捕獲・被害防止策の強化を考えています。侵入防止柵・電気柵の設置や、国・県の補助事業を利用した対策の支援・指導に努めます。協議会や猟友会と連携を取りながら、狩猟者の育成・確保に取り組みます。町職員や町内外を問わず、興味のある人に呼びかけ、担い手の確保、育成につなげます。

労働安全衛生委員会の立上げは

答産業医決定



梅林 智子議員

議員 6月議会の質問で、委員会の立上げと産業医の委嘱を約束されましたが、どうなっていますか。町長 7月16日に正式に『日野町衛生委員会』として立ち上げました。産業医・総務課長・衛生管理者・職員労働組合等で組織しました。根拠法令は、「日野町安全衛生管理規定」です。職員の安全及び健康の確保に関し、快適な明るい職場づくりを推進してまいります。議員 産業医は決まりましたか。町長 日野病院櫃田院長にお願いしました。議員 サービス残業や代休が取れない事はないですか。町長 所属長管理です。議員 メンタル不調者に寄り添う専門家が必要ではありませんか。課長 復職支援のために、かかりつけ医・産業医・所属する課と連携をとりなが



産業医の櫃田院長

ら、健康回復を目指して、役場全体で取り組んでいきたいと考えています。

保健師不足解消の目的は

議員 保健師の慢性的な不足で、DV・引きこもり等の一般的な相談体制が不十分ではありませんか。町長 10月から1名保健師を増員します。

すでにキャリアのある方です。ですので、活躍を期待しています。

職員への苦情対応は

議員 苦情解決の対応策はどうしていますか。町長 総務課長に一括担当させています。



対策が急がれる空き家

危険家屋対策を

議員 町内に12、13戸在ると言われる、「危険家屋」の対策が急がれます。不在家主も多いが、危険を知らせ、対処を求める根拠を持ち、安全確保のために警告し、協力を求めることが必要ではないですか。町長 危険家屋の管理は、所有者たる者の責務が基本

です。第三者の方に迷惑をかけるようにするのが町の役割です。県と一緒にやっていくが、はかどらないのが実態です。非常に難しいが、避けて通れない事案です。慎重に効果がある方法を模索し実行していきます。



健康福祉課

特集 行動

がんばっている人・団体を、シリーズで紹介します。

D.O.スポーツ

D.O.スポーツは、平成8年に結成。田舎に日本を代表する選手が来てくださることは少なく、実技指導や講演会を行っていただ

うと、日野町体育指導委員会（現町スポーツ推進委員会）を中心に第一人者招へい事業からスタートしました。

平成17～18年度に、日本体育協会の「総合型地域スポーツクラブ育成団体」に指定され、「総合型地域スポーツクラブ」として、現

在約50名の会員で様々な活動を展開しています。

運動やスポーツが得意な人の集まりだと思われるところが多いのですが、競技系のスポーツ団体ではありません。いわゆるスポーツだけでなく文化活動（そば打ち道場）やレクリエーションを取り入れた活動を展開しています。

スポーツの語源『憂いを除く』（楽しむこと）が好きな人たちの集まりです。

そんな活動の一環として、平成18年の秋から「日野川くだり（ラフティング）」に取組んでいます。

「濡れるのはイヤ」と言っていた人が、岩から川に飛び込んでいきます。

ばっちりメイクで受付した人が、川から帰ってきたら誰だかわからない、なんてことも。それでも笑顔です。

子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらいたい。「日野川の水を飲ませてあげば鮭みたいに帰ってくる



乗艇前に実技指導

といいな」と思っています。

漁協の方にも、子どもの活動であればと、夏場の鮎かけのシーズン中でも、ラフティングができる場所を設定していただいています。

ラフティングは、スタッフ自身も楽しんでいきます。何を楽しいと感じるかが、結局、どういう生き方をするのに関わってくると思います。

D.O.スポーツ事務局筆

あとがき

コシヒカリ1等米、9200円（60キロ）今年の米価の概算金が発表され、耳を疑った。25年が12000円、24年は14000円だった。ひとめぼれ・きぬむすめは8400円。あまりの急落だ。戸別所得補償制度は政策変更され、米余りだという。作業委託していたら大赤字。

自分で作業しても、買うほうがマシ。

山間地の農業が生きにくくためには、国や県に支援対策の強化を一層求めたい。どんな情勢であろうが、農村や水田を守らなくてはならないと思う秋の日です。

梅林 智子筆

議会広報常任委員会

委員長 安達 幸博

副委員長 松原 直人

佐々木 求

小谷 博徳

松本 利秋

梅林 智子